

Globally connected. Rooted in Japan.
Your most trusted partner.

2025年度決算の概要

2026年5月13日

決算ハイライト

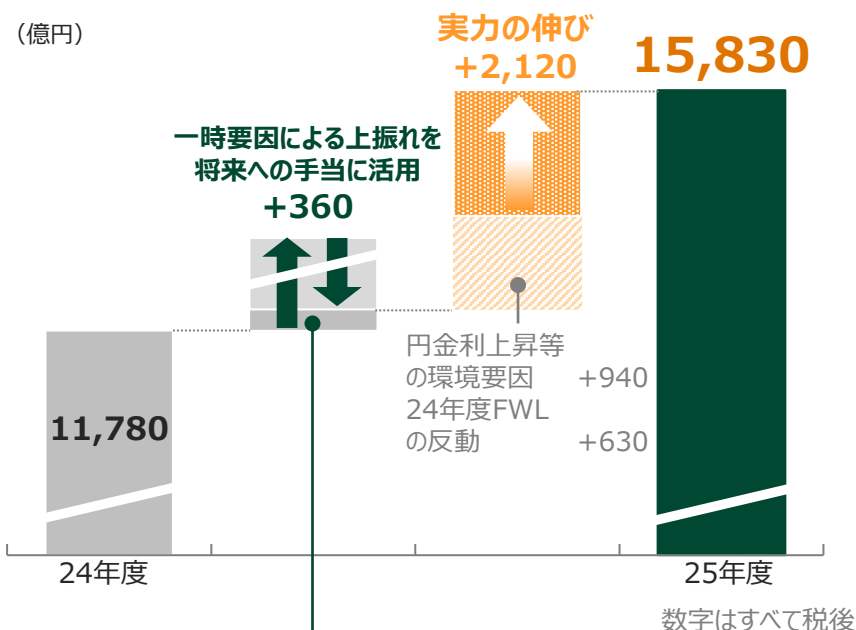
- 1 25年度は、国内中心に本業の好調が継続し、将来に向けた手当を実施したうえで、
過去最高益を更新、ROEも10%に到達
26年度は、不透明な環境に注視しつつ、親会社株主純利益で1兆7,000億円を目指す
- 2 26年度の配当予想は+23円増配の180円/株（配当性向40%）
自己株取得は今回1,800億円を実施、期中の追加実施も機動的に検討
- 3 当社の長期的な成長戦略を評価し長期保有いただける株主との関係を構築するため、
每期増配にコミットするとともに、株式分割・株主優待を実施
- 4 グローバルトップティアに伍する収益性目標として中長期的にROTEで15%を掲げ、
新中期経営計画では28年度にROTE13%・親会社株主純利益 2兆円を目指す

決算ハイライト① 2025年度業績

本業の好調が継続し、親会社株主純利益は、目標1兆5,000億円を大きく上回って過去最高益を更新
利益成長に伴って、東証ROEやEPSも大幅に改善

(億円)	25年度		
	実績	前年比	目標比
連結粗利益	48,447	+7,179	-
営業経費 (経費率)	▲26,515 (54.7%)	▲2,496 (△3.5%)	-
連結業務純益	23,309	+6,116	+2,809
与信関係費用	▲3,884	▲439	▲884
株式等損益	4,461	▲638	-
経常利益	23,034	+5,839	+1,934
親会社株主純利益	15,830	+4,050	+830
東証ROE (%)	10.4	+2.4	-
EPS (円)	412	+110	-

▶ 親会社株主純利益の増減内訳



一時的な上振れ (+2,240)		将来への手当 (▲1,880)	
株式売却益	+1,100	FWL引当	▲460
市場事業部門	+1,000	債券ポートフォリオ入替	▲420
SMBCAC保険金	+140	米州銀行子会社再編での損失	▲340
		睡眠預金抜本引当*1	▲240
		低採算アセット売却	▲210
		OTO/SOF一括処理	▲210

*1 長期間にわたり異動がなく負債計上を中止した預金（睡眠預金）に関し、将来の払戻請求に伴う費用発生に備えるための引当金

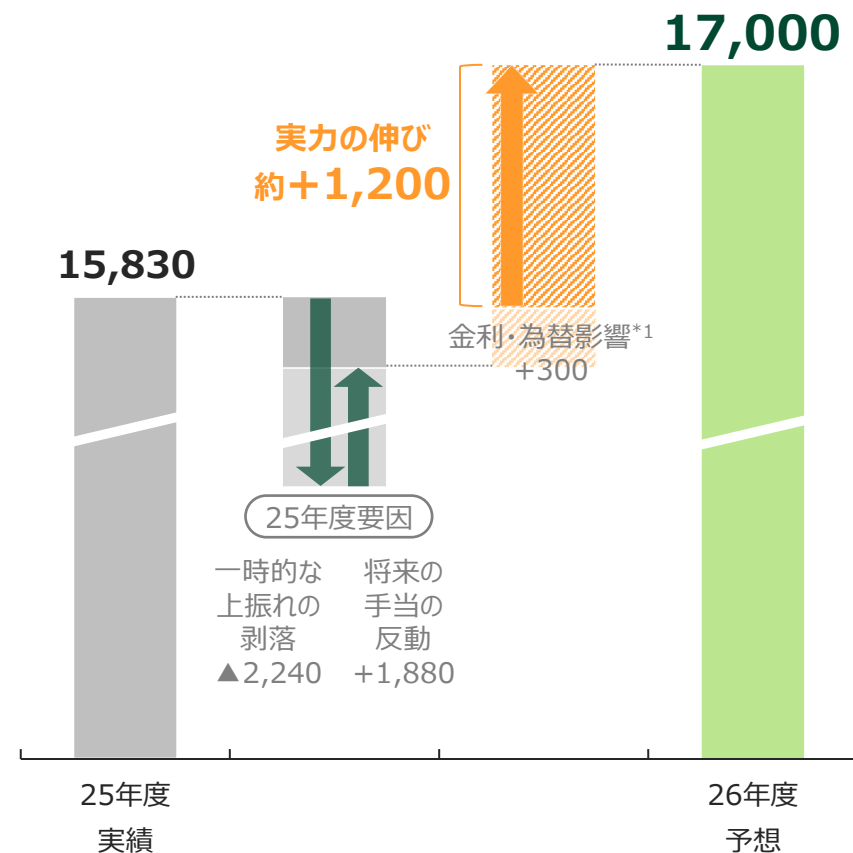
決算ハイライト② 2026年度業績目標

中東情勢の影響を吸収しつつ、実力の伸びを通じてボトムライン利益1兆7,000億円の達成を図る
リスク深刻化時のダウンサイドにも機動的に対応し、目標達成を目指す

(億円)	25年度 実績	26年度 目標	前年比
連結業務純益	23,309	24,000	+691
与信関係費用	▲3,884	▲3,400	△484
経常利益	23,034	23,900	+866
親会社株主純利益	15,830	17,000	+1,170

▶ 親会社株主純利益の増減内訳

(億円)



*1 計画前提：政策金利 日本0.75%、米国3.5%、1ドル=150円

決算ハイライト③ 株主還元強化

株主還元の基本は引き続き配当とし、**毎期増配にコミットしつつ、**
ボトムライン成長にあわせた力強いDPS成長を実現

自己株取得は、足元の不透明な環境も踏まえ、5月はまず**1,800億円の実施を公表**



	FY18	19	20	21	22	23	24	25	26E	27E	28E
自己株取得 (億円)	700	1,000	-	-	1,387	2,113	2,500	2,500	1,800 +a		
【参考】総還元性向 (%)	44	51	51	41	58	59	61	54	51 +a		

機動的に実施

*1 2024年10月1日付で実施した株式分割（3分割）を踏まえ、過去に遡り調整した金額（小数点以下は四捨五入）

*2 2026年6月の定時株主総会での発行可能種類株式総数にかかる定款変更決議を前提に株式分割（2分割）を実施
 効力発生日：2026年10月1日、分割後の1株あたり配当：90円

損益の概要

	(億円)	25年度	前年比	目標比
1 連結粗利益		48,447	+7,179	
2 営業経費 (経費率)		▲26,515	▲2,496	
		54.7%	△3.5%	
3 持分法投資損益		1,377	+1,432	
4 連結業務純益		23,309	+6,116 +36%	+2,809
5 与信関係費用		▲3,884	▲439	▲884
6 株式等損益		4,461	▲638	
7 その他		▲852	+799	
8 経常利益		23,034	+5,839	+1,934
9 特別損益		▲516	▲321	
10 税コスト		▲6,669	▲1,538	
11 親会社株主純利益		15,830	+4,050 +34%	+830
12 東証基準ROE		10.4%	+2.4%	
13 株主資本ROE		13.8%	+3.0%	

● 連結粗利益 (為替影響*1: +650)

国内における資金利益の増加に加え、国内ホールセールビジネスの手数料収入増加、資産運用・決済ファイナンスビジネスの好調等により増益。債券ポートフォリオの入替 (▲600) や、資本効率改善に向けた低採算アセットの売却 (▲300) も実施

● 営業経費 (為替影響*1: ▲290)

インフレ影響や売上連動費等により増加するも、トップラインの伸長により、経費率は大幅に改善

● 持分法投資損益 (為替影響*1: +40)

24年度のベトナム出資先ののれん減損剥落 (△1,350) により増益

● 与信関係費用

中東情勢悪化等に対するFWL引当の実施 (▲650) や、OTO/SOFの不良債権の一括処理 (▲310) により増加

● 株式等損益

Kotak株式の売却益 (940) を計上するも、政策保有株式の売却益減少 (3,860、YoY▲990)、東亜銀行株式の売却に伴う損失計上 (▲280) 等により減少

● その他

株式関連のリスクコントロールを目的とした先物取引における損失計上 (▲320) や睡眠預金引当の計上 (▲340) を行った一方、24年度の利息返還損失引当金剥落 (△1,400) により増益

● 特別損益

米州銀行子会社の再編に伴う損失 (▲460) により減益

*1 BC海外支店PL (取引日レート)・海外現法PL (期末日レート) 等の為替変動影響

(参考) 主要グループ会社の業績

▶ SMBC

	(億円)	25年度	前年比	目標比
1 業務粗利益		26,779	+4,213	
2 うち資金利益		19,463	+2,950	
3 うち投資信託解約損益		654	▲186	
4 国内		11,480	+3,002	
5 海外		7,983	▲51	
6 うち役務取引等利益		6,200	+741	
7 国内		2,985	+467	
8 海外		3,214	+274	
9 うち特定取引利益+その他業務利益		1,076	+515	
10 うち国債等債券損益		▲965	▲413	
11 経費		▲11,860	▲1,139	
12 業務純益		14,919	+3,075	+1,119
13 与信関係費用		▲860	△648	▲260
14 株式等損益		4,267	▲594	
15 その他臨時損益		660	+976	
16 当期純利益		14,117	+3,431	+1,217

▶ SMBC以外の主要グループ会社

(左：25年度実績、右：前年比)

(億円)	SMBC日興 ^{*1}		SMCC ^{*2}		
業務粗利益	5,864	+510	8,844	+660	
経費	▲4,707	▲238	▲6,270	▲581	(特殊要因除き) ^{*3}
業務純益	1,157	+272	2,629	+801	2,629 +801
当期純利益	1,283	+550	1,057	+1,700	1,057 +298

(持分法適用)

	SMBC信託		SMDAM ^{50%}		SMFL ^{*4} 50%	
業務粗利益	807	+85	516	+78	4,112	+1,053
経費	▲457	▲31	▲354	▲19	▲1,792	▲389
業務純益	351	+55	163	+60	2,409	+632
当期純利益	264	+41	58	+21	1,201	▲138

連結消去

- ✓ 大口の子会社配当：1,500億円（前年比+50億円）
- ✓ VP Bank 投資損失引当金の戻り：△900億円

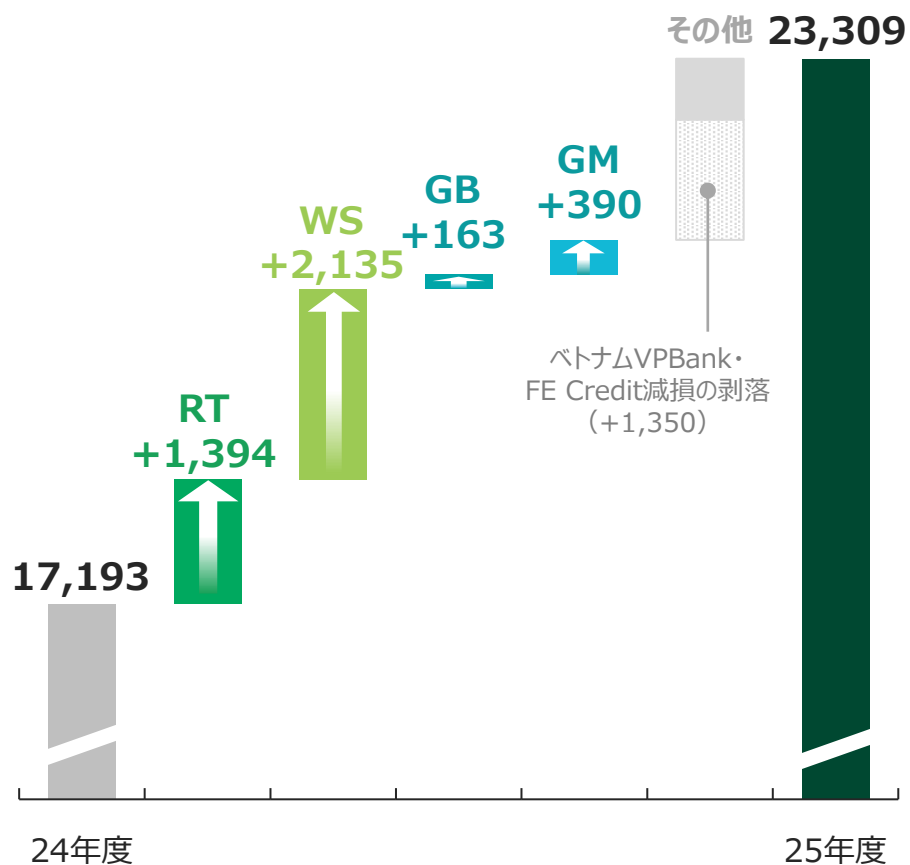
*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

*3 24年度に発生したFE Creditののれん減損、過払債務の抜本的処理影響、SMBCFSとの合併に係る抱合せ株式消滅差益を除いた数字 *4 内部管理ベース

(参考) 連結業務純益 / 親会社株主純利益の内訳

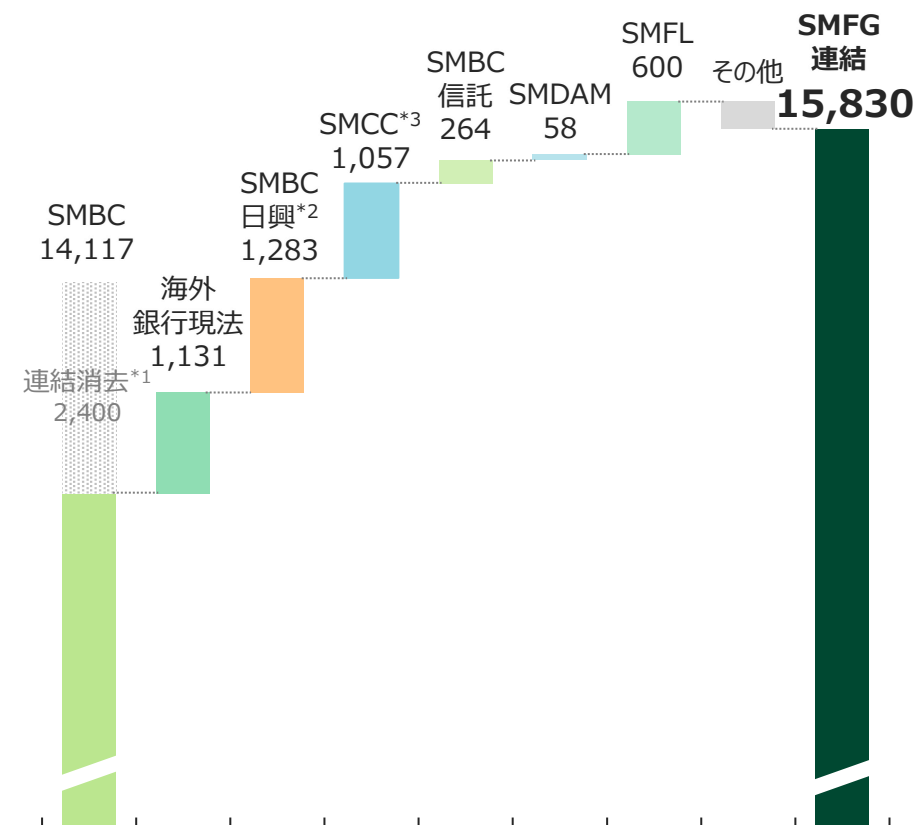
▶ 連結業務純益

(億円)



▶ 親会社株主純利益 (エンティティ別)

(億円)

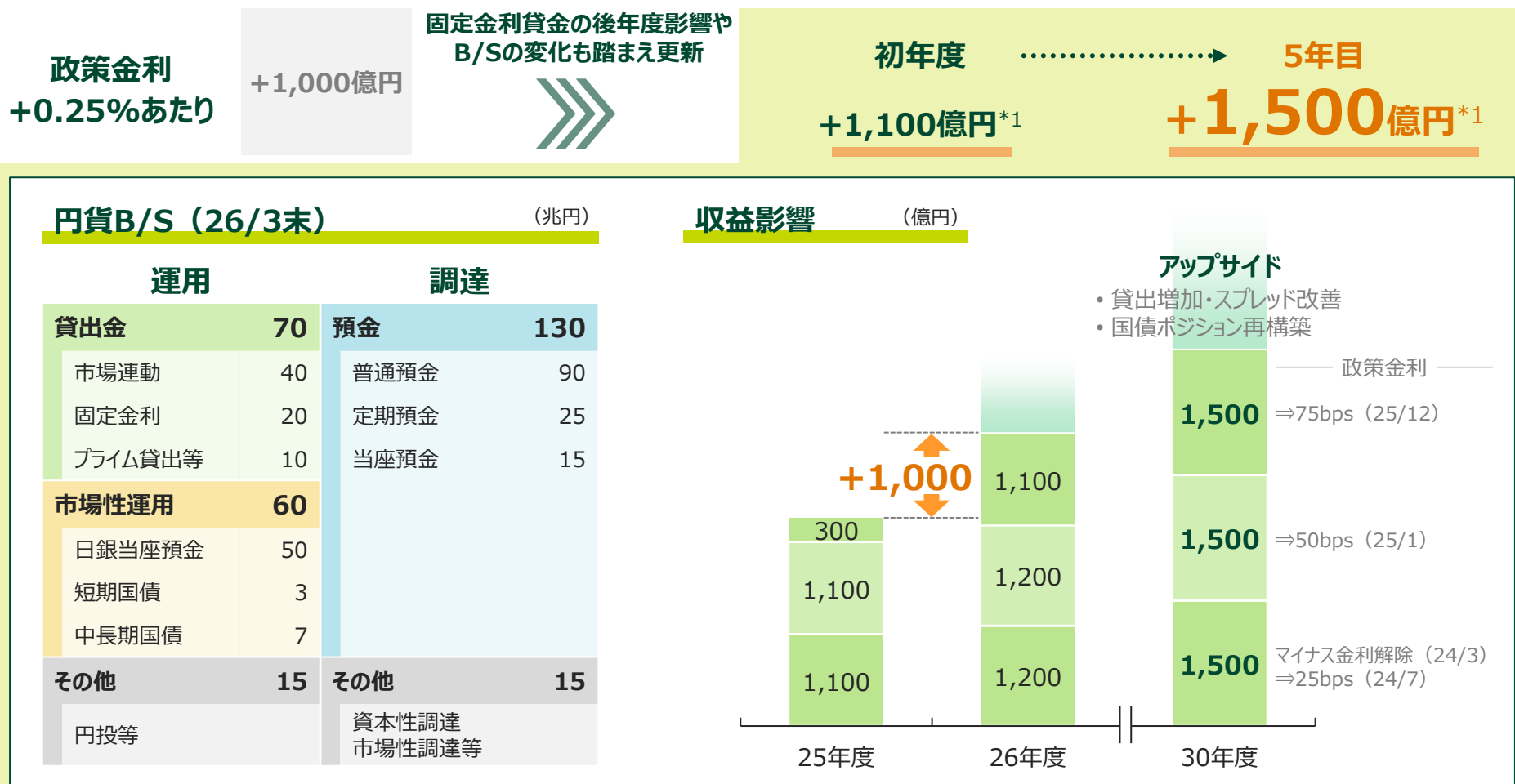


*1 大口の子会社配当: 1,500億円、VPBank 投資損失引当金の戻り: 900億円

*2 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *3 SMBCCFの計数を含む

円金利上昇影響

政策金利+0.25%で、初年度+1,100億円、固定金利貸出の入替効果により5年目には+1,500億円
貸出金の残高・スプレッド増加や国債ポートフォリオの再構築等でさらなるアップサイドあり



*1 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定。預金金利は過去実績を使用

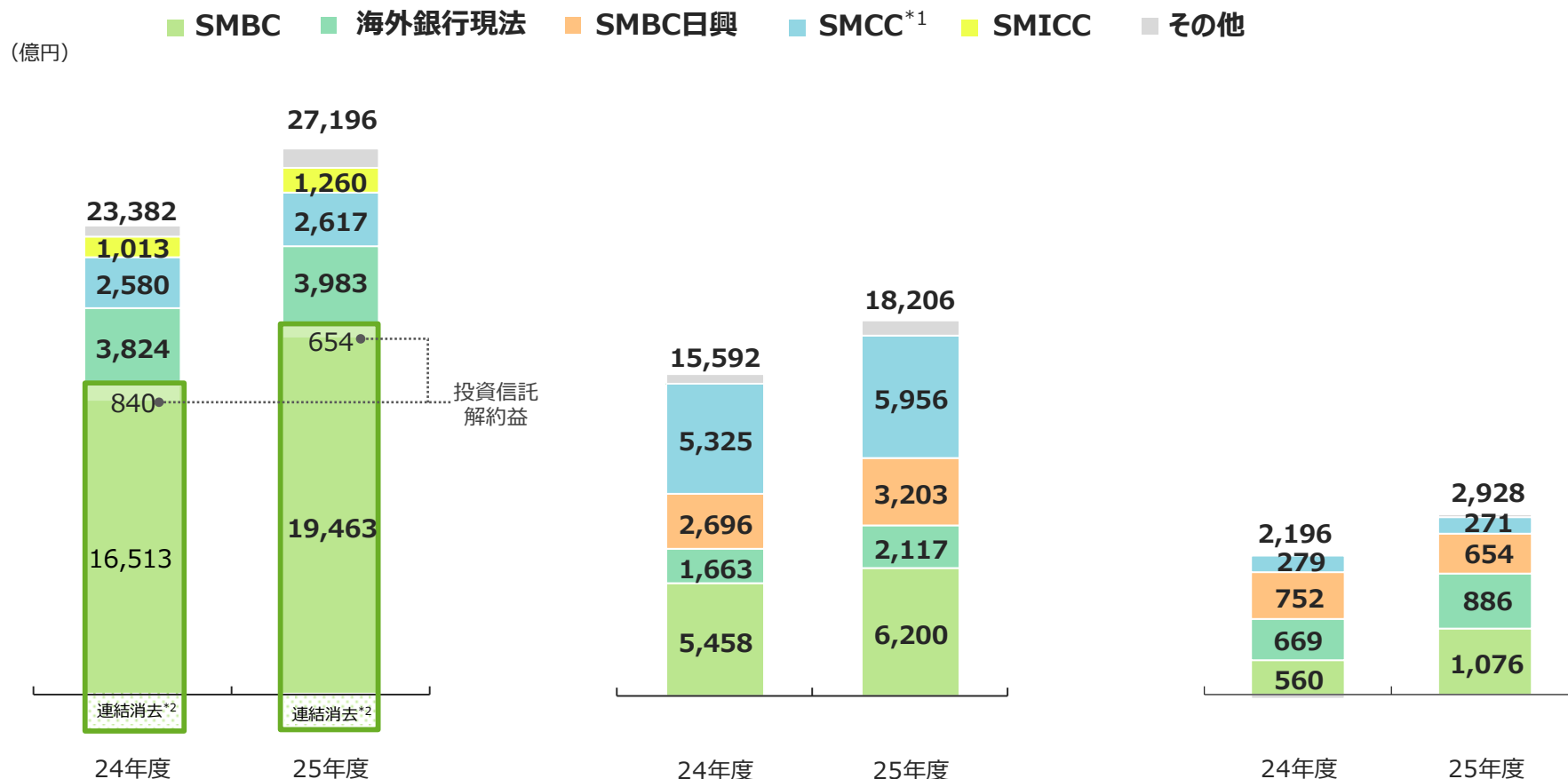
連結粗利益

国内貸出残高の増加に加え、金利上昇の追い風もあり資金利益は増加
 役務取引等利益も、活発なコーポレートアクションの捕捉やOliveによる買物取扱高増加等により増益

▶ 資金利益

▶ 役務取引等利益

▶ 特定取引+その他業務利益

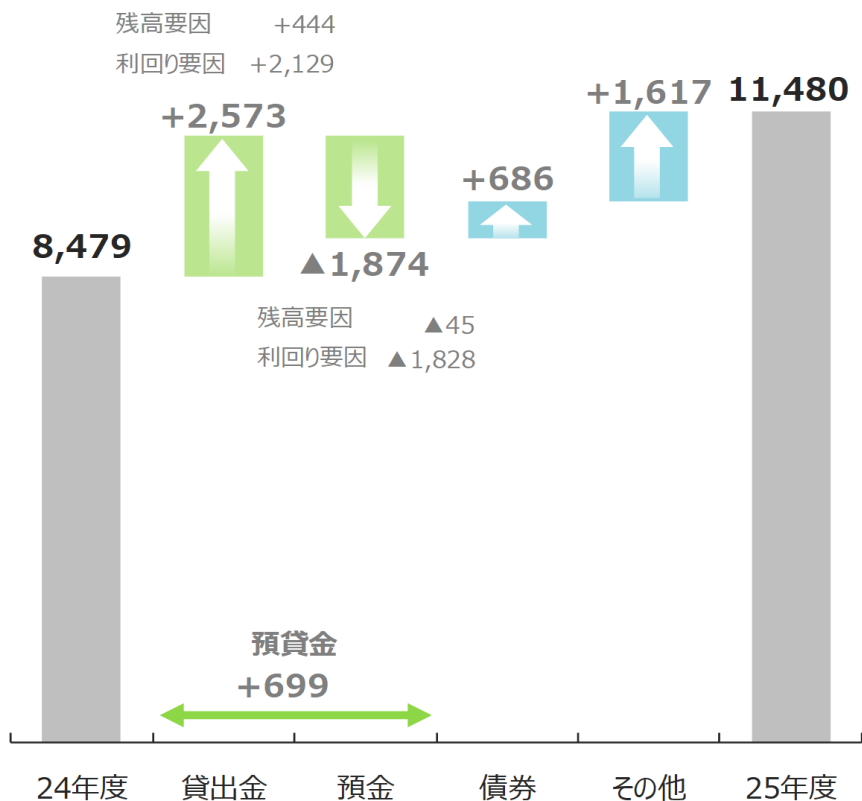


*1 SMBCCFの計数を含む *2 一過性の子会社配当（24年度:1,450億円、25年度:1,500億円）を含む

(参考) 資金利益の増減要因 (SMBC)

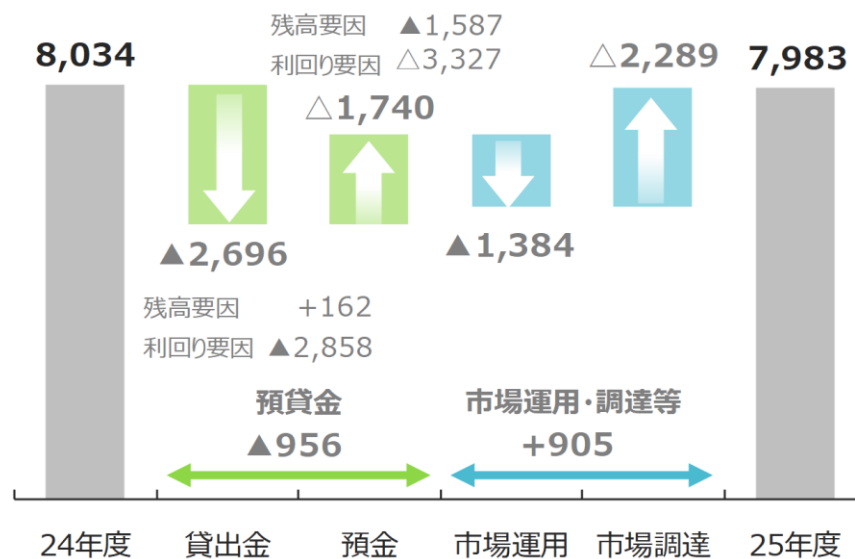
▶ 国内

- 市場金利上昇による預貸金利回り改善と貸出金の残高増加により、預貸金収益はプラス



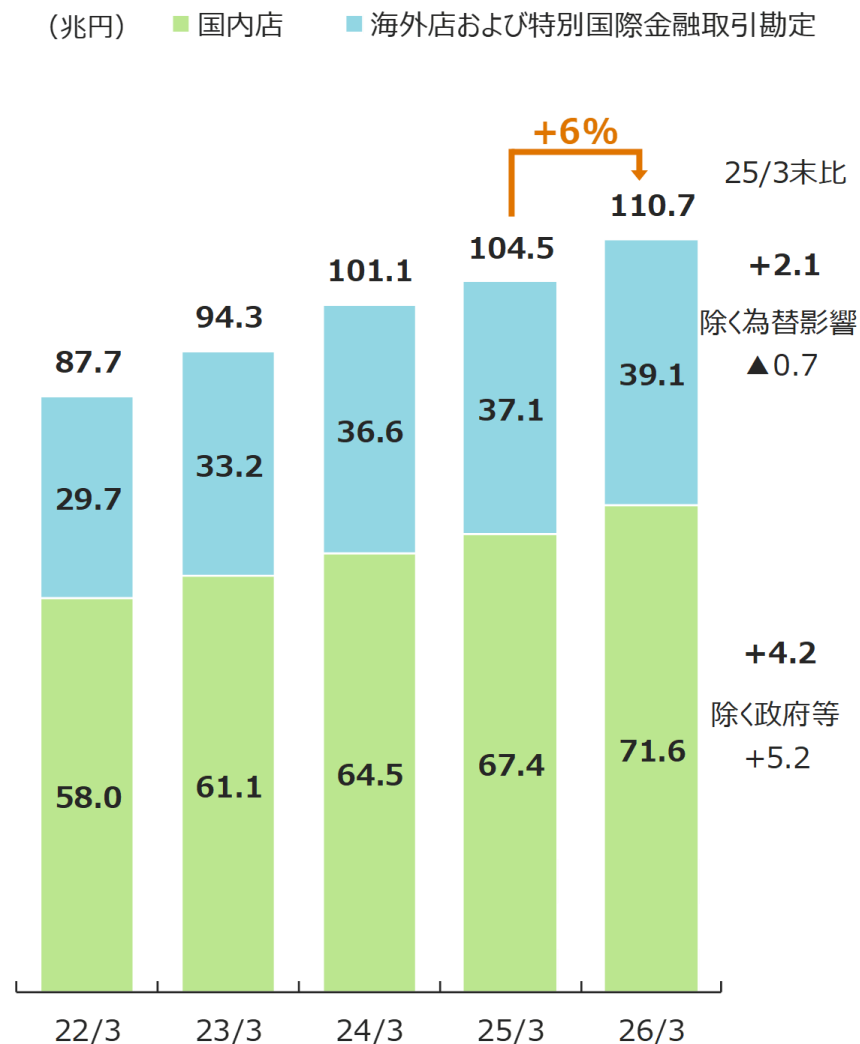
▶ 海外

- 貸出残高は減少するも、為替影響により円建換算では増加また、欧米での利下げ影響に加え、外貨預金の獲得推進による残高増加により、預貸金収益はマイナス



貸出金*1

▶ 貸出金残高



▶ 国内預貸金利回差

(%)	25年度	前年比	上期	下期
貸出金利回	1.34	+0.32	1.28	1.40
預金等利回	0.20	▲0.14	0.18	0.23
預貸金利回差	1.14	+0.18	1.10	1.17

(参考) 政府等向け貸出金控除後

(%)	25年度	前年比	上期	下期
貸出金利回	1.35	+0.31	1.29	1.40
預貸金利回差	1.15	+0.17	1.11	1.17

▶ 期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	25年度	前年比*4	25年度	前年比
国内貸出	66.7	+4.4	0.68	▲0.01
うち大企業	26.3	+3.6	0.54	▲0.05
中堅・中小企業	23.3	+1.5	0.68	+0.02
個人	12.1	▲0.0	1.15	+0.01
海外運用資産 (億ドル) *3	3,621	+132	1.43	+0.09

*1 SMBC *2 内部管理ベース

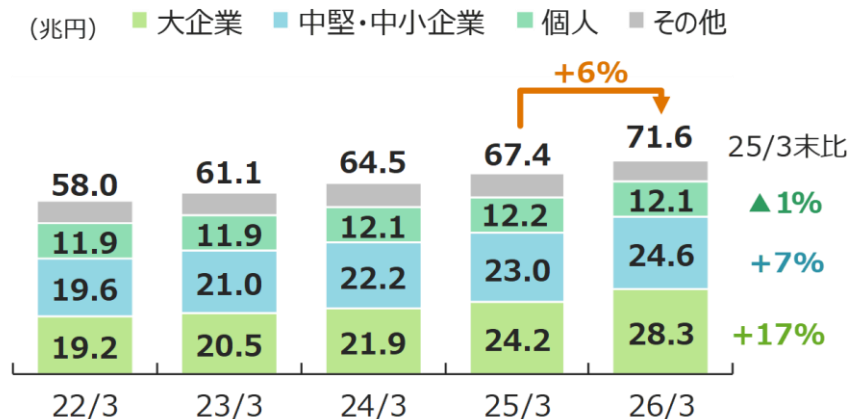
*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。GBにおける貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載

*4 為替影響等調整後ベース

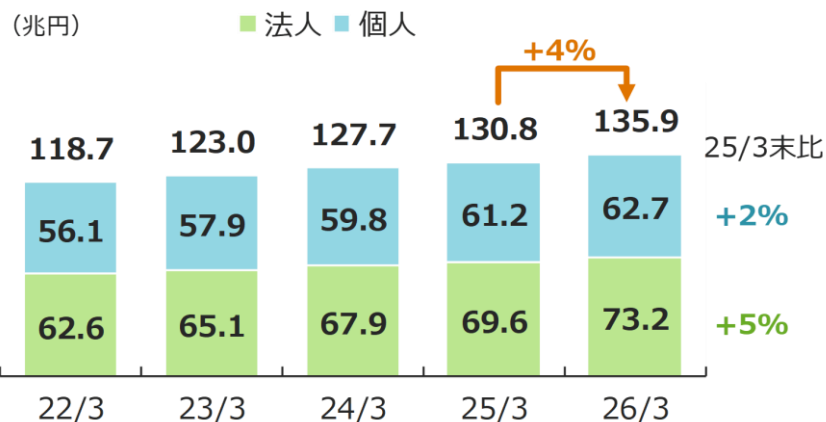
国内預貸金*1

活発な資金需要を捉えて貸出金残高は堅調に推移、特に、大企業は大口案件の捕捉もあり大幅に増加
個人預金はOlive効果を主因に増加、法人も大口先を含め運用ニーズの捕捉に注力し増加

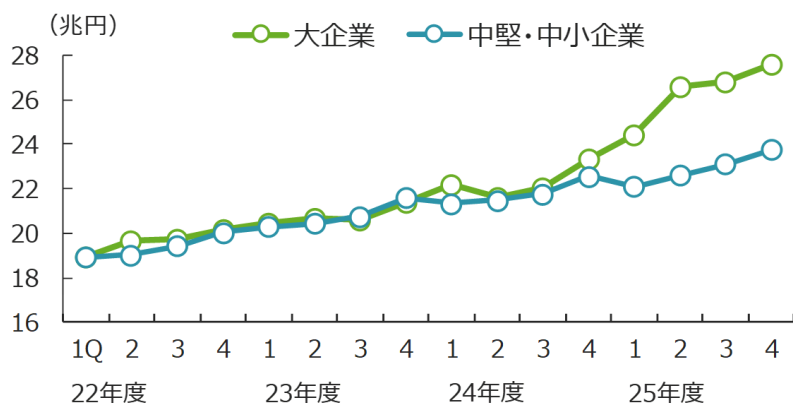
▶ 貸出金残高*2,3



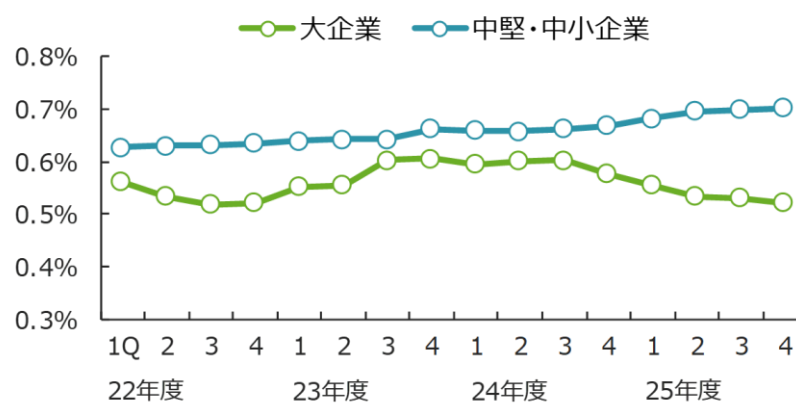
▶ 預金残高



▶ 法人向け平均貸出金残高*2,4



▶ 法人向け貸出金スプレッド*2,5

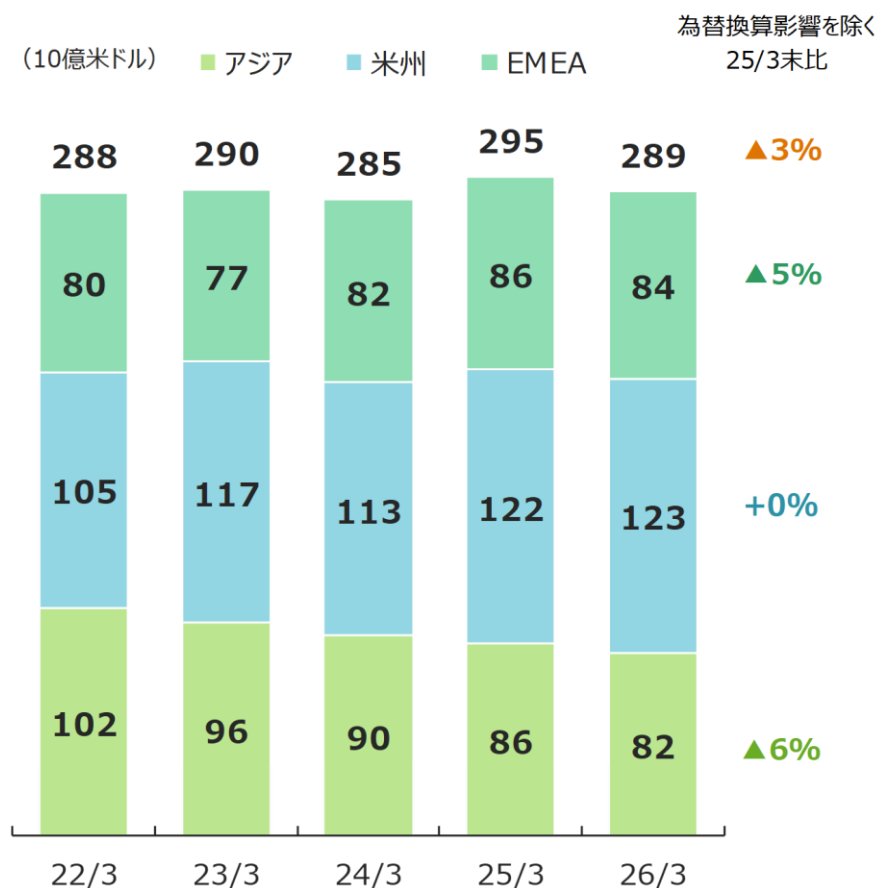


*1 SMBC *2 内部管理ベース *3 25/9より中堅・中小企業の集計方法を変更、遡及反映を実施
*4 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く *5 ストックベース、政府向け等を除く

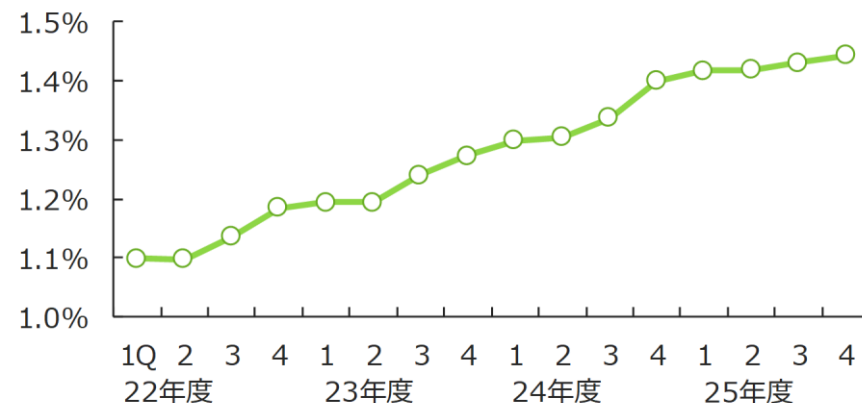
海外預貸金*1

低採算アセットの削減と選別的な高採算案件の取組により、貸出金残高は減少するもスプレッドは着実に改善

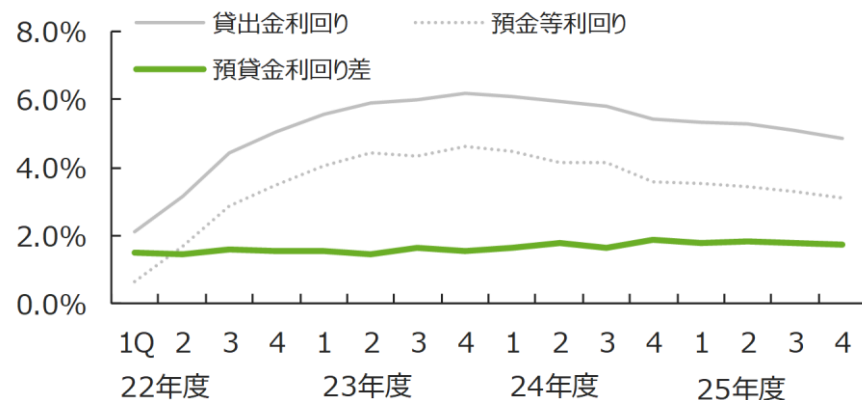
▶ 貸出金残高



▶ 貸出金スプレッド*2,3



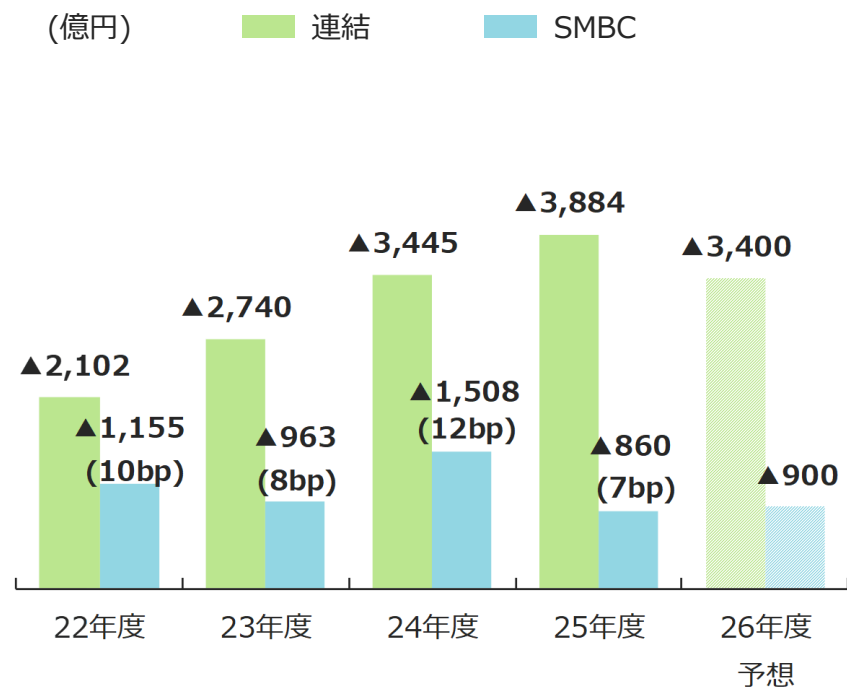
▶ 預貸金利回差



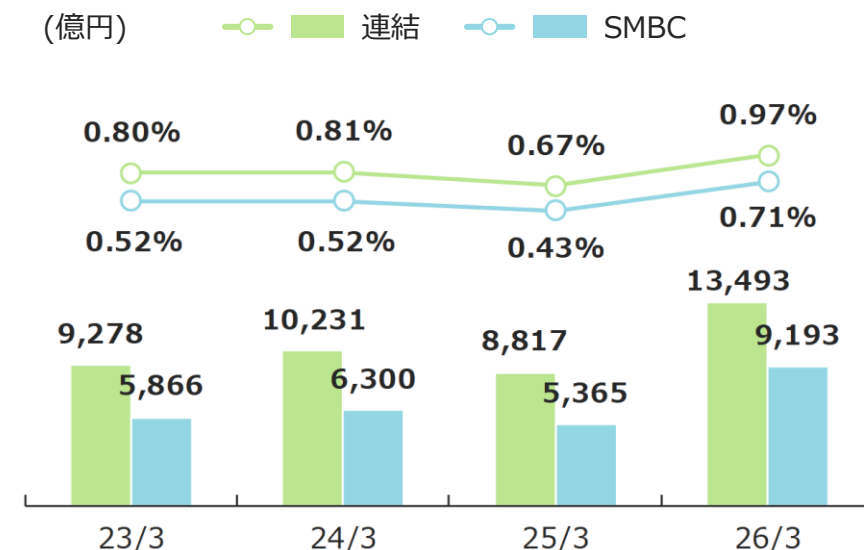
*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算 *2 ストックベース
*3 24年度より集計方法の変更、遡及反映を実施

アセットクオリティ

▶ 与信関係費用



▶ 不良債権比率*2・残高



連単差の主な内訳 (概数)

(億円)	25年度	前年比
SMCC	▲ 1,260	▲ 100
うちSMBCCF	▲ 690	▲ 100
海外銀行現法	▲ 1,110 ^{*1}	▲ 310
SMICC	▲ 430	▲ 120

不良債権内訳 (連結)^{*3}

	(億円)		
国内	6,511	4,554	5,844
アジア	2,099	1,749	2,469
米州	845	1,175	3,673
EMEA	776	1,339	1,507

その他要注意先 (除く要管理債権)

	(兆円)		
SMBC	1.8	1.7	1.2

総与信未残

	(兆円)		
連結	126	131	139
SMBC	120	123	130

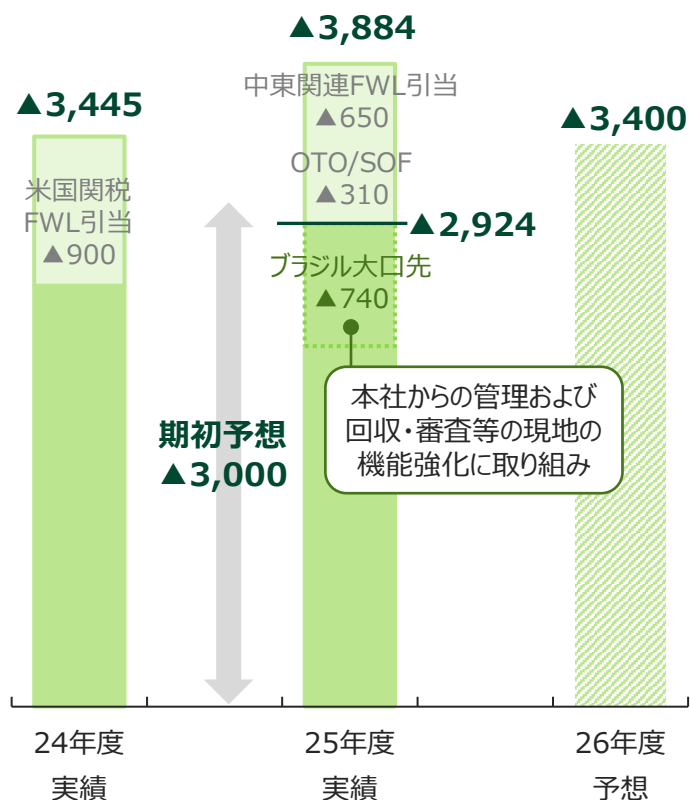
*1 OTO/SOFの不良債権の一括処理 (▲310) を含む

*2 不良債権比率 = 銀行法および再生法に基づく債権残高 (除く正常債権) / 総与信 *3 内部管理ベース

クレジットコスト

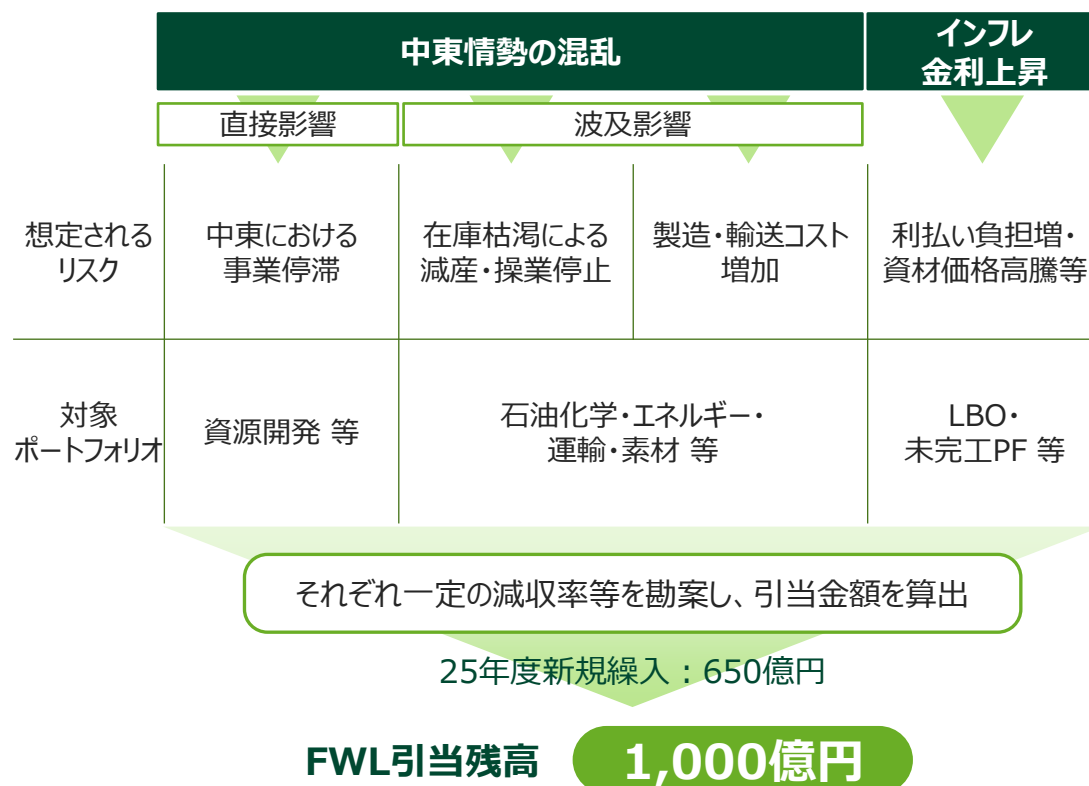
25年度は、フォワードルッキング引当およびOTO/SOFの不良債権一括処理の影響を除けば、期初予想並み
中東リスクは波及影響も含めて一定手当済ながら、引き続き状況を注視

(億円、内訳は概数)



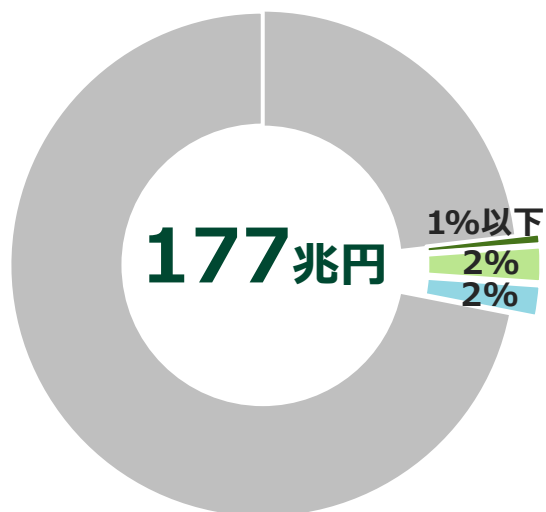
中東関連FWL引当

影響が想定されるポートフォリオに対し、一定の減収等を織り込み影響を試算



プライベートクレジット／AI関連／中東向けエクスポージャー

SMBCグループ エクスポージャー合計*1



プライベートクレジット		1.2兆円
BDC*2 1.2兆円 (うちオンバランス0.5兆円) BDCが保有する、主に非上場中堅・中小企業向けの貸付等を担保とする融資	すべてシニア／有担保	
	LTV 約20%*3	
	投資適格比率 80%超	
	デフォルト先なし	

中東		3.5兆円
カタール	1.3兆円	金融機関・ソブリン向けが7割
サウジアラビア	1.1兆円	
UAE	0.6兆円	投資適格比率 80%超

AI関連		4.0兆円
データセンター	2.6兆円	総エクスポージャーの1% 長期利用契約先の8割が 超大手クラウドサービス業者
ソフトウェア	1.3兆円	総エクスポージャーの1%以下

*1 BC連結、本社所在国・内部管理ベース

*2 投資先が展開する事業に対して、金融面・経営面から支援を行う会社 (Business Development Company)

*3 返済順位が当行と同等以上の借入額÷ファンド保有資産の現在価値

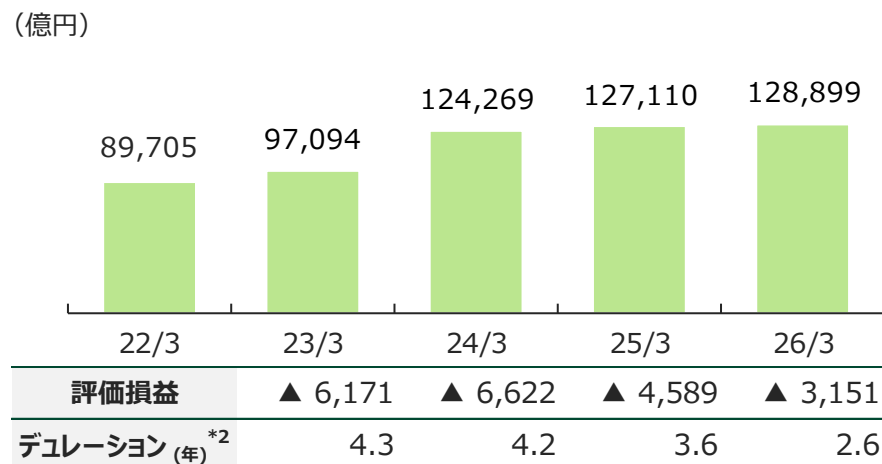
有価証券

▶ その他有価証券の内訳（連結）

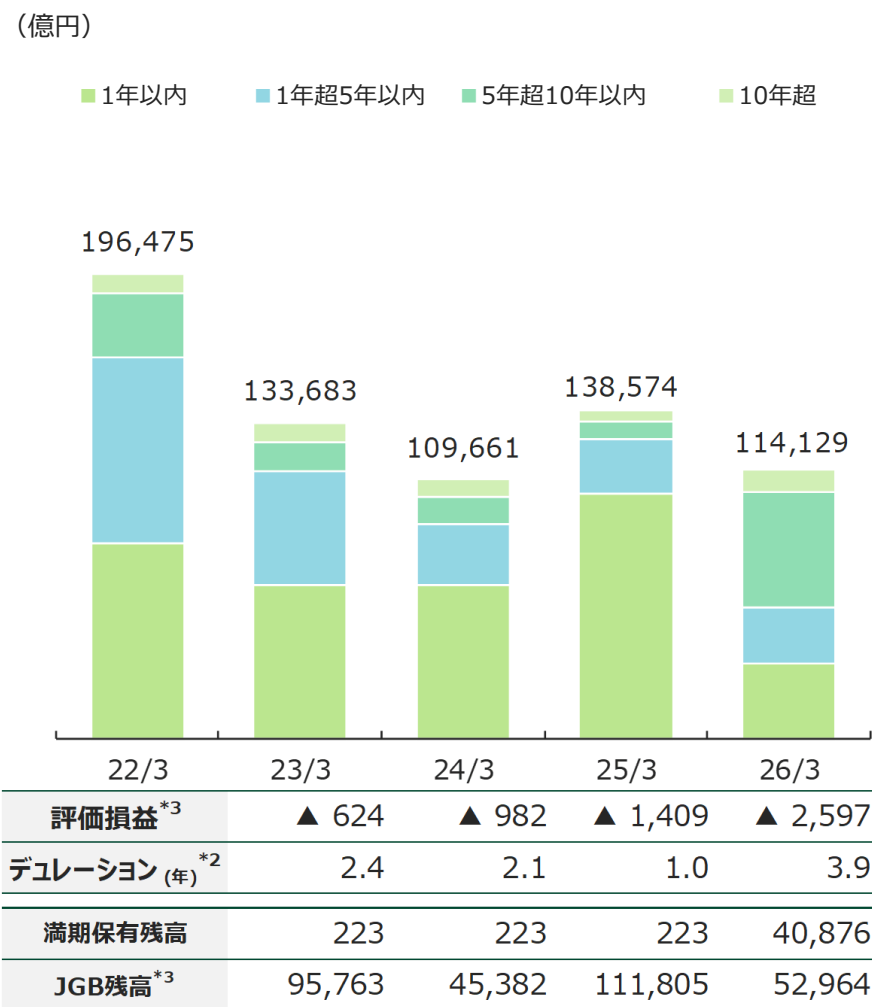
(億円)	残高		評価損益	
	26/3末	25/3末比	26/3末	25/3末比
満期保有目的	46,553	+43,809	▲ 1,786	▲ 1,725
その他有価証券	348,023	▲ 49,745	32,202	+4,142
国内株式	35,033	+4,581	24,972	+5,363
国内債券	75,567	▲ 63,368	▲ 2,712	▲ 1,264
うち国債	54,764	▲ 57,041	▲ 1,204	▲ 680
その他	237,423	+9,042	9,943 ^{*1}	+43
うち外債	185,348	+11,100	▲ 3,004	+1,487

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

▶ 外債（SMBC）



▶ 円債（SMBC）



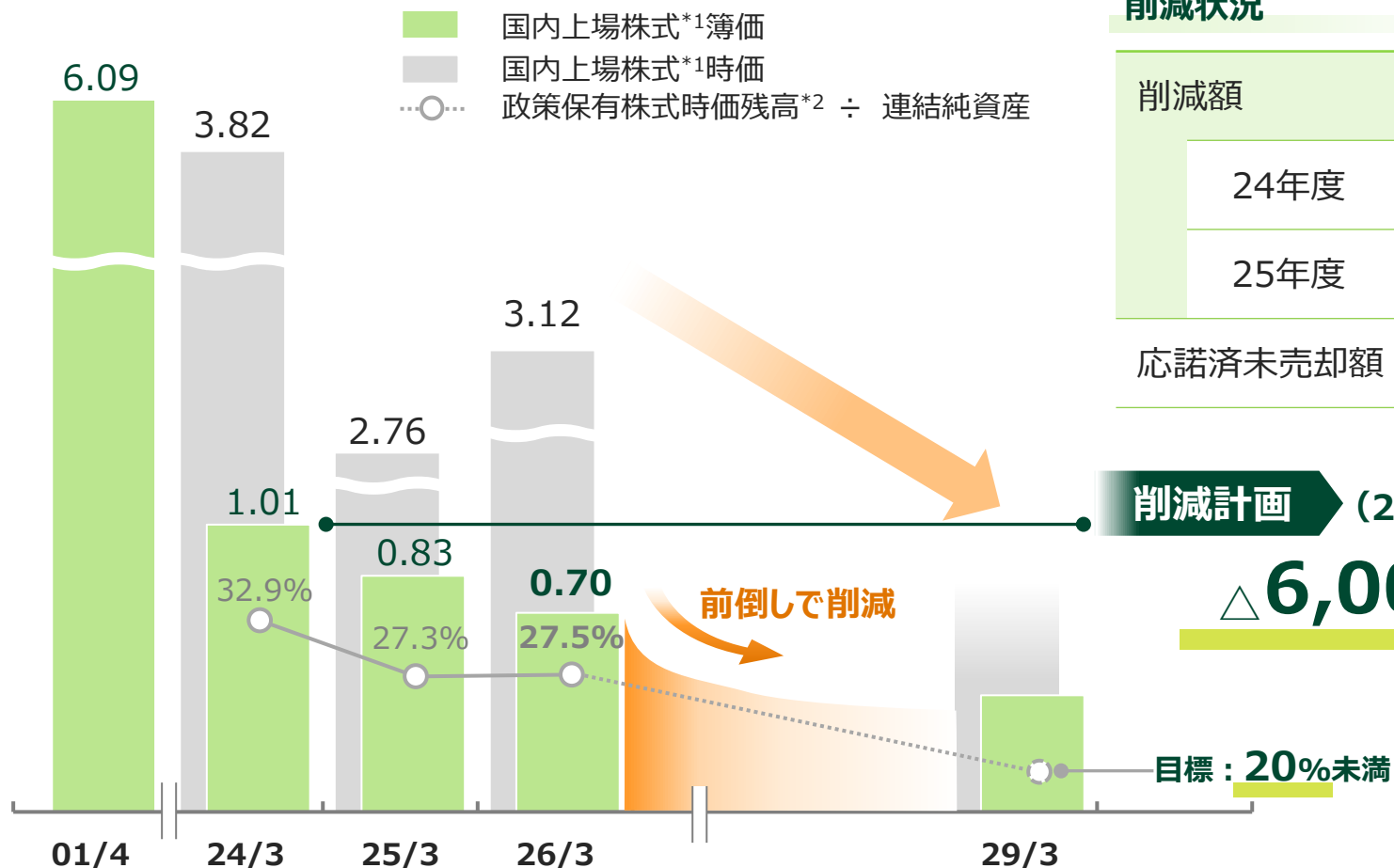
*1 外国債券との差額は外国株式等 *2 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず
*3 満期保有目的を除く

政策保有株式

25年度までの標準進捗40%に対し52%と前倒しで削減中

顧客との交渉を粘り強く継続し、計画の前倒し達成に向けて削減を加速

(兆円)



削減状況

削減額 Δ 3,090億円

24年度 Δ 1,850億円

25年度 Δ 1,240億円

応諾済未売却額 690億円

削減計画 (24-28年度)

Δ 6,000億円

目標: 20%未満

*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

バランスシート

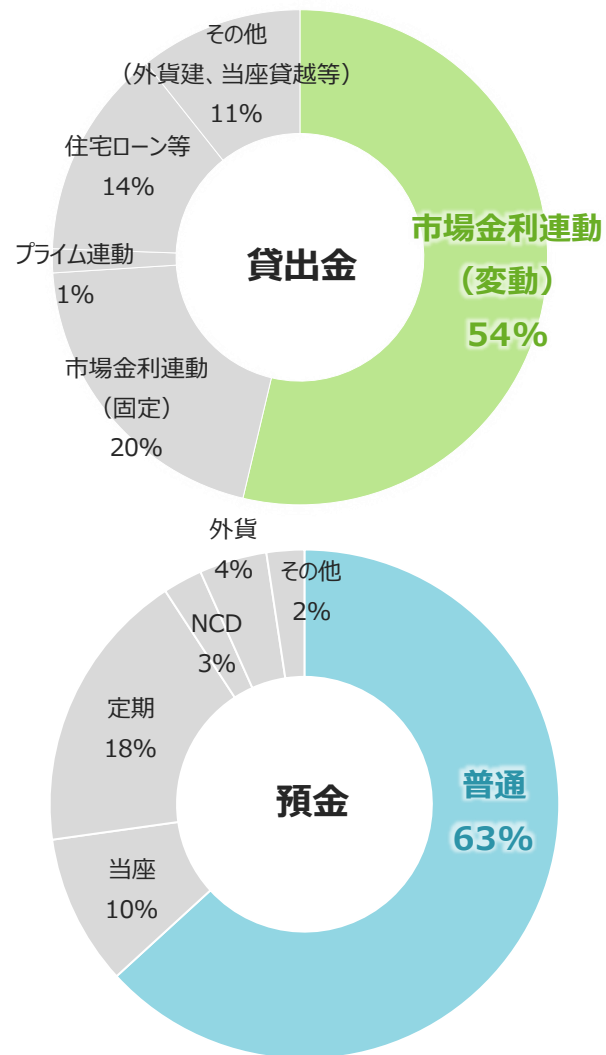
▶ 連結B/S

() 内は25/3末比

貸出金 117.6兆円 (+6.5兆円) 国内貸出金*1 71.6兆円	預金 201.3兆円 (+12.7兆円) 預貸率 58.4% 国内預金*1 135.9兆円 譲渡性預金(NCD) 15.7兆円
有価証券 40.0兆円 (▲0.8兆円) 国債*2 5.5兆円 外国債券*2 18.5兆円	その他 111.2兆円 (+8.4兆円) 純資産 15.9兆円 (+1.1兆円)
その他 170.9兆円 (+16.5兆円) 現預金 73.7兆円 日銀当座預金*1 50.8兆円	

総資産 328.5兆円 (+22.2兆円)

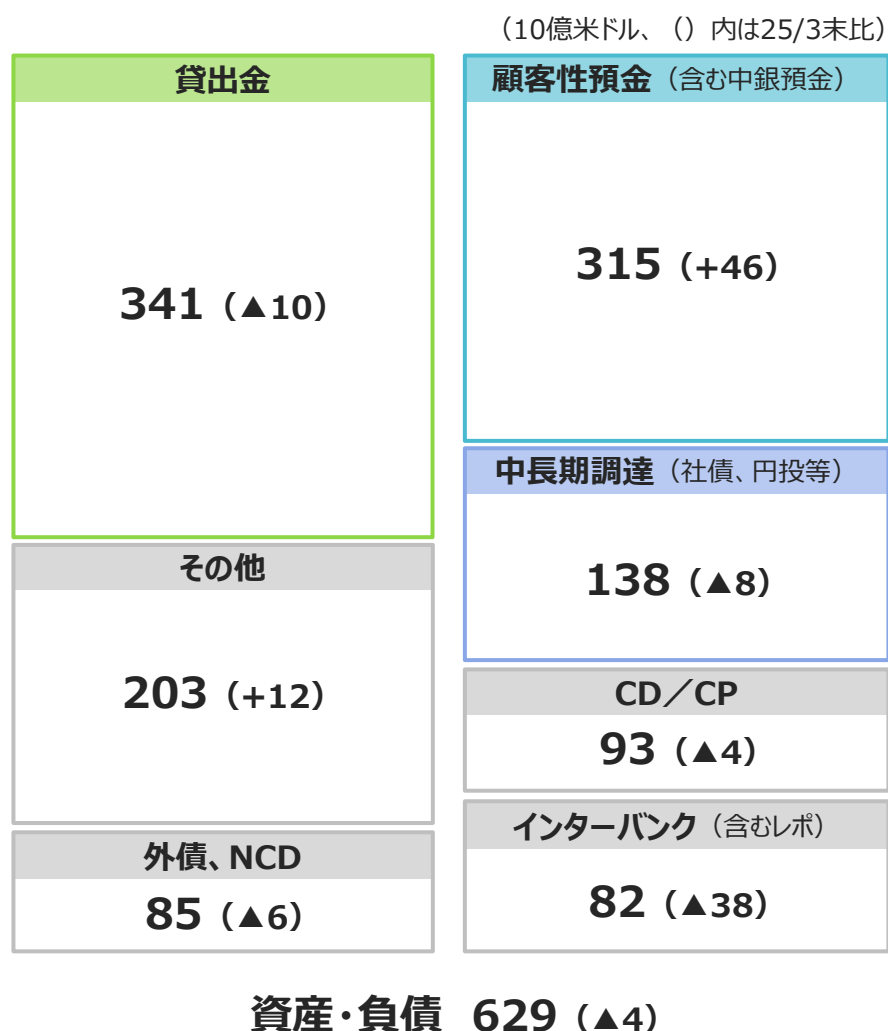
▶ 預貸金の構成比 (SMBC) *3



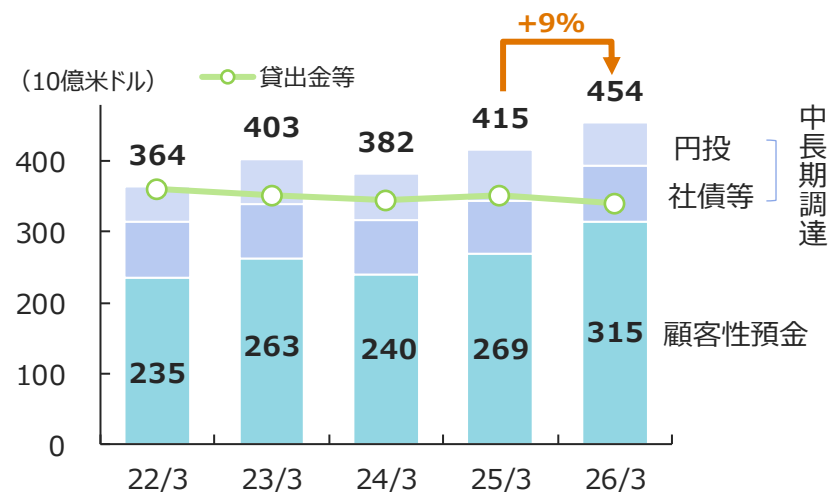
*1 SMBC *2 満期保有目的を除く *3 内部管理ベース

外貨流動性

▶ 外貨B/S*1,2



▶ 外貨ファンディング



(参考) 外貨金利の変動影響

預貸金

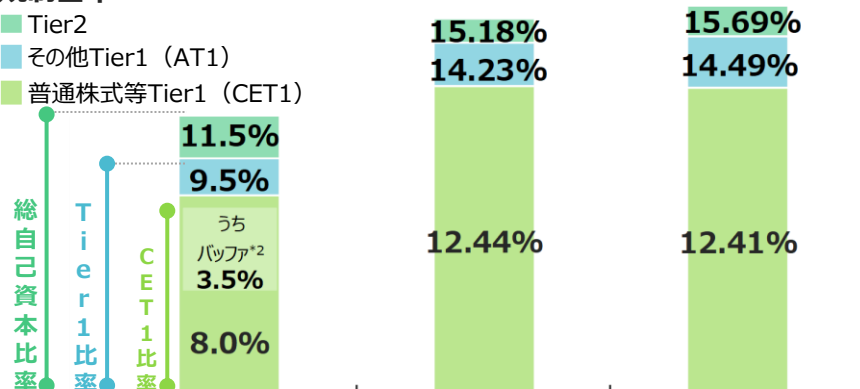
- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

資本・リスクアセット

▶ 自己資本比率(規制基準)*1

規制基準

- Tier2
- その他Tier1 (AT1)
- 普通株式等Tier1 (CET1)



所要水準 (億円)

	25/3末	26/3末
総自己資本	141,441	158,659
Tier1資本	132,588	146,559
うちCET1資本	115,851	125,440
Tier2資本	8,853	12,101
リスクアセット	931,171	1,010,782

バーゼルⅢ最終化基準

CET1比率	10.7%	11.1%
除くOCI	10.2%	10.3%
CET1資本 ^{*3} (兆円)	10.4	10.9
リスクアセット ^{*3} (兆円)	101.6	105.8

▶ その他の規制比率

	26/3末	所要水準
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	23.86%	18.0%
レバレッジエクスポージャーベース	9.51%	7.10%
レバレッジ比率	5.00%	3.7%
LCR (25年度4Q平均)	141.1%	100%

*1 バーゼルⅢ最終化は24/3末より段階適用開始。29/3末に完全実施される予定

*2 資本保全バッファ-2.5%+G-SIBsバッファ-1.0%。カウンターシクリカルバッファ (CCyB) は勘案せず

*3 バーゼルⅢ最終化・その他有価証券評価差額金を除く。RWAからも株式の含み益に係る評価差額金を除く

事業部門別実績①

▶ リテール

- 金利上昇に伴う預金収益増加と、好調な資産運用・決済ファイナンスビジネスにより業務粗利益は増加
- コストコントロール施策の着実な積み上げにより経費率が改善、当期純利益は増益、ROCET1は大幅に改善

(億円)	25年度	前年比 ^{*1}
業務粗利益	15,556	+2,002
うち預金収益	1,921	+1,268
貸金収益 ^{*2}	722	▲ 101
資産運用ビジネス	3,832	+496
決済ビジネス	5,826	+282
コンシューマーファイナンス	3,181	+177
経費	▲ 11,346	▲ 624
経費率	72.9%	△1.3%
業務純益	4,277	+1,394
与信関係費用	▲ 1,262	▲ 99
当期純利益	2,178	+2,274
ROCET1	15.6%	+16.0%
除く過払債務の抜本的処理影響	15.6%	+6.7%
リスクアセット (兆円)	14.1	+0.5

▶ ホールセール

- 貸出金増加と預貸金利回り差改善により預貸金収益が拡大、手数料ビジネスも大口案件の捕捉が寄与し、大幅に増益
- 政策保有株式売却益は減少するも、当期純利益は増益、ROCET1も上昇

(億円)	25年度	前年比 ^{*1}
業務粗利益	12,534	+2,302
うち預金収益	3,171	+1,432
貸金収益	2,808	+241
うち		
SMBC		
外為・為替手数料	1,609	+48
シンジケーション	638	+38
ストラクチャードファイナンス	889	+488
不動産ファイナンス	210	+21
証券	910	+47
経費	▲ 4,079	▲ 272
経費率	32.5%	△0.5%
業務純益	9,971	+2,135
与信関係費用	△ 46	△ 146
株式等損益	2,929	▲ 1,298
当期純利益	9,185	+690
ROCET1	21.4%	+0.7%
除く政策保有株式売却益	16.3%	+3.3%
リスクアセット (兆円)	40.0	+2.0

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く

事業部門別実績②

▶ グローバル

- 貸出需要が堅調に推移する中、選別的に案件に取り組んだ結果、貸金収益・ローン関連手数料は増加
- 大口先の劣化等による与信関係費用の増加を主因に、当期純利益は減少、ROCET1は低下

(億円)	25年度	前年比 ^{*1}
業務粗利益	15,509	+1,101
うち預金収益	1,873	▲ 24
貸金収益	5,874	+315
ローン関連手数料	2,933	+493
証券	1,162	+204
経費	▲ 10,634	▲ 1,074
経費率	68.6%	▲2.5%
持分法投資損益	1,236	+80
業務純益	6,558	+163
与信関係費用	▲ 2,579	▲ 909
当期純利益	3,210	▲ 376

ROCET1	5.9%	▲1.0%
リスクアセット (兆円)	51.0	▲ 1.7

▶ 市場

- ボラティルな環境の中で、機動的なポートフォリオ運営によりリスク量をコントロールし、着実にバンキング収益を蓄積
- 相場急変時のトレーディングには苦戦したものの、当期純利益は増加、ROCET1も上昇

(億円)	25年度 ^{*2}	前年比 ^{*1}
業務粗利益	6,978	+567
うちSMBC	4,950	+904
SMBC日興	1,259	▲237
経費	▲ 2,285	▲ 232
経費率	32.7%	▲0.7%
業務純益	5,087	+390
当期純利益	3,562	+288

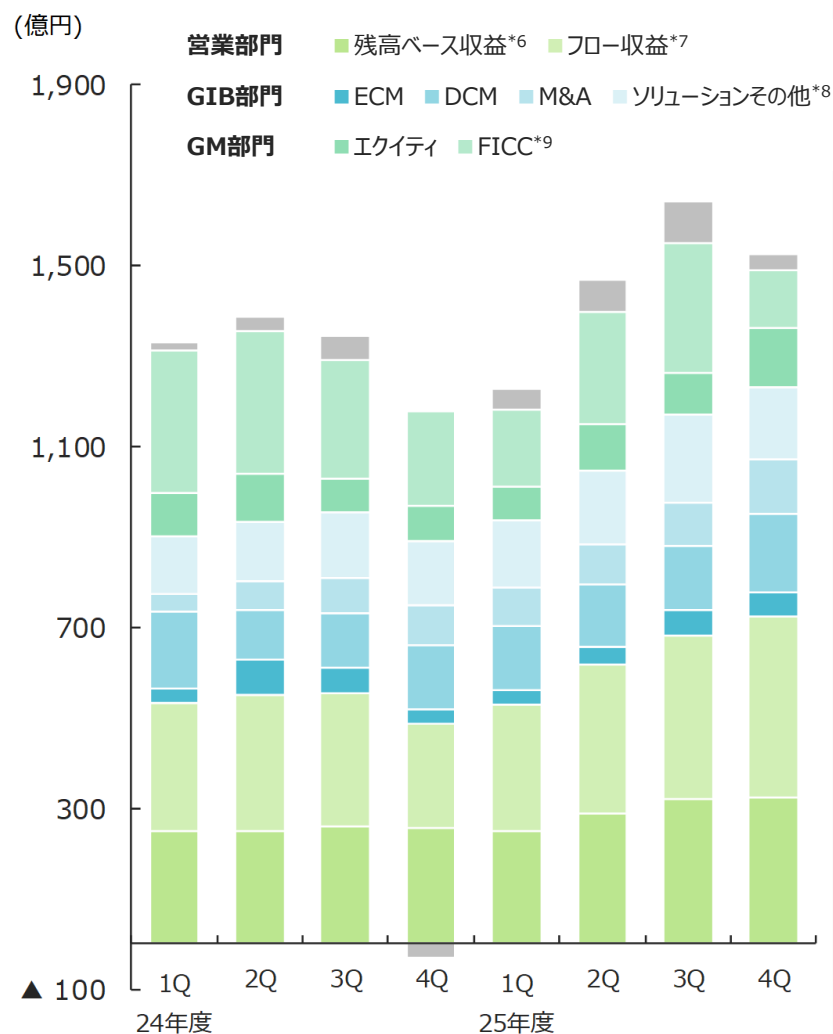
ROCET1 ^{*3}	21.7%	+1.4%
リスクアセット (兆円)	7.5	+0.7

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 債券ポートフォリオ入替影響を除く *3 バンキング勘定の金利リスク見合いを含む

▶ 業績

(億円)	24年度	25年度	前年比
純営業収益	5,212	5,864	+652
販売費・一般管理費	▲4,353	▲4,707	▲354
営業利益	859	1,157	+298
うち営業部門	301	684	+383
GIB部門*3	310	481	+171
GM部門*4	250	▲147	▲397
経常利益	911	1,305	+394
当期純利益	733	1,283	+550
預り資産残高*5 (兆円)	81.1	91.1	

▶ 純営業収益



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsなどの利益を含む内部管理ベース

*2 2025年度より海外におけるデリバティブ事業の集計定義を変更、遡及反映を実施

*3 グローバル・インベストメント・バンキング部門 *4 グローバル・マーケット部門 *5 SMBC日興単体

*6 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等 *7 株式委託手数料等

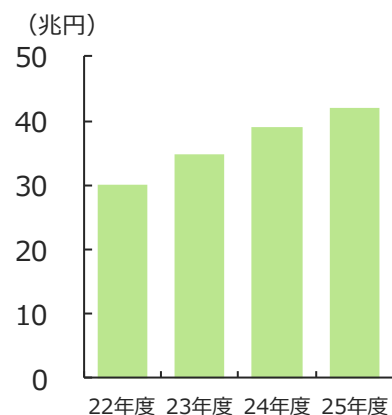
*8 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等 *9 Fixed Income, Currency and Commodities

SMCC (SMBCCFを含む)

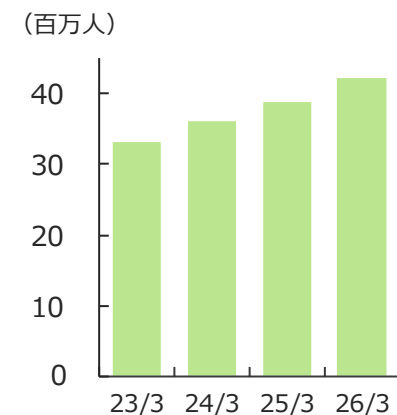
▶ 業績

(億円)	24年度	25年度	前年比
営業収益	9,681	10,347	+667
うち買物手数料	2,578	2,851	+273
ファイナンス	3,260	3,507	+247
うちSMBCCF	1,566	1,693	+126
信販・収納代行	817	831	+14
信用保証収益	832	874	+42
営業費用	▲9,824	▲8,979	△845
うち貸倒費用	▲1,218	▲1,341	▲122
うちSMBCCF	▲638	▲720	▲82
利息返還費用	▲1,415	0	△1,415
債務保証費用	▲81	▲87	▲6
経常利益	▲786	1,365	+2,151
うち営業外収益	61	65	+4
営業外費用	▲704	▲68	△636
親会社株主純利益	▲643	1,057	+1,700
特殊要因影響除く*1	759	1,057	+298
不良債権比率*2	10.11%	10.53%	
利息返還損失引当年数*2,3	10.4年	13.0年	

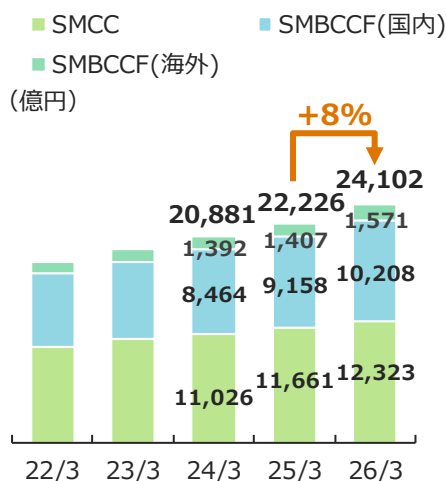
▶ 買物取扱高



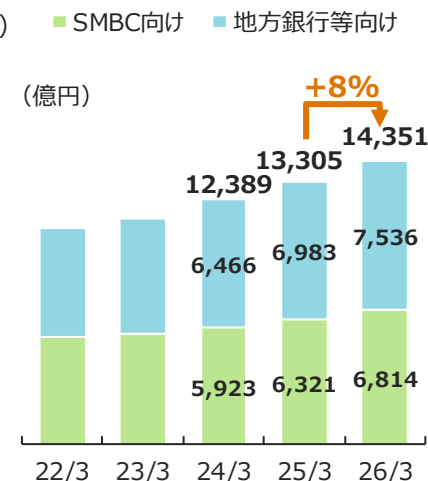
▶ 会員数



▶ ファイナンス残高*4



▶ 保証残高*2



*1 24年度に発生したFE Creditののれん減損、過払債務の抜本的処理影響、SMBCCFとの合併に係る抱合せ株式消滅差益を除いた数字

*2 SMBCCFのみ *3 引当年数 = 利息返還損失引当額 / 当該年度の利息返還額 *4 SMBCモビット再編影響を遡及反映

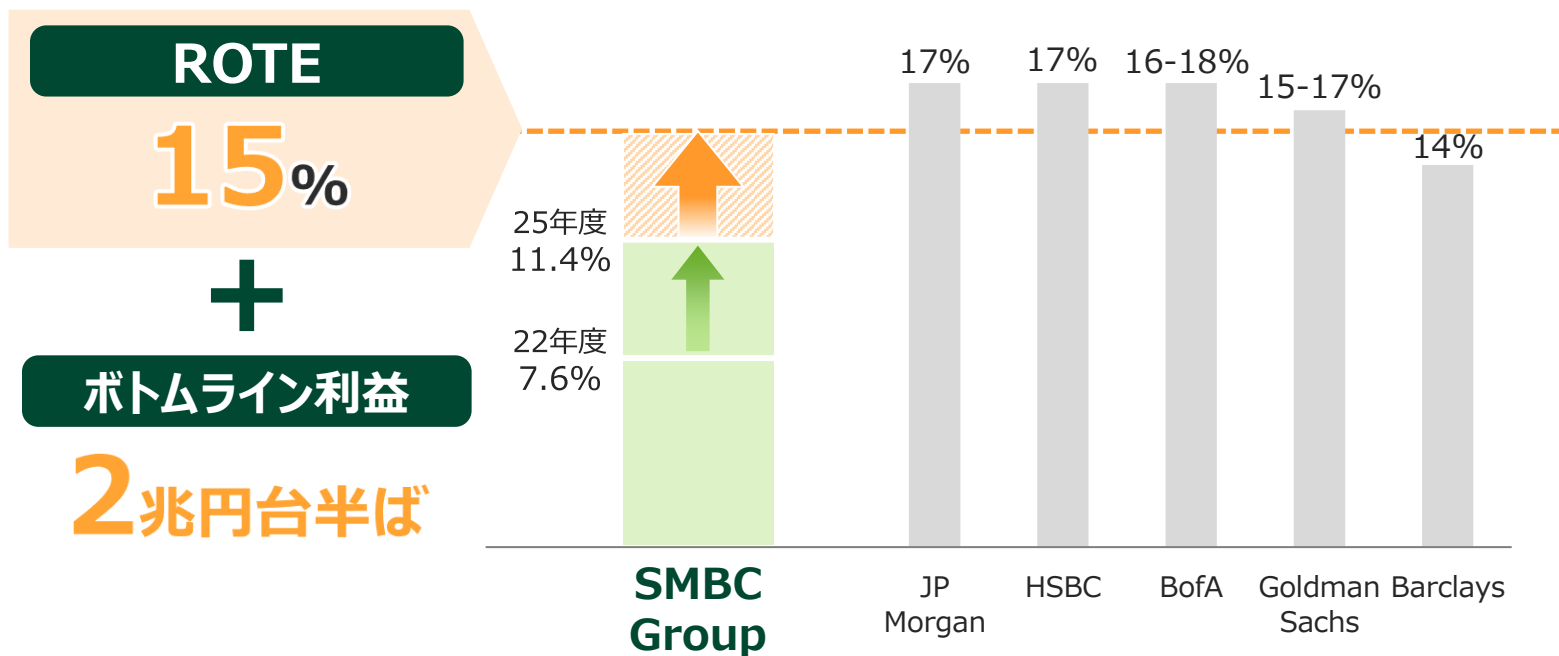
中長期的（5年後～）に目指す姿

新ビジョン

世界をつなぐ日本発のトラステッド・パートナー

Globally connected. Rooted in Japan. Your most trusted partner.

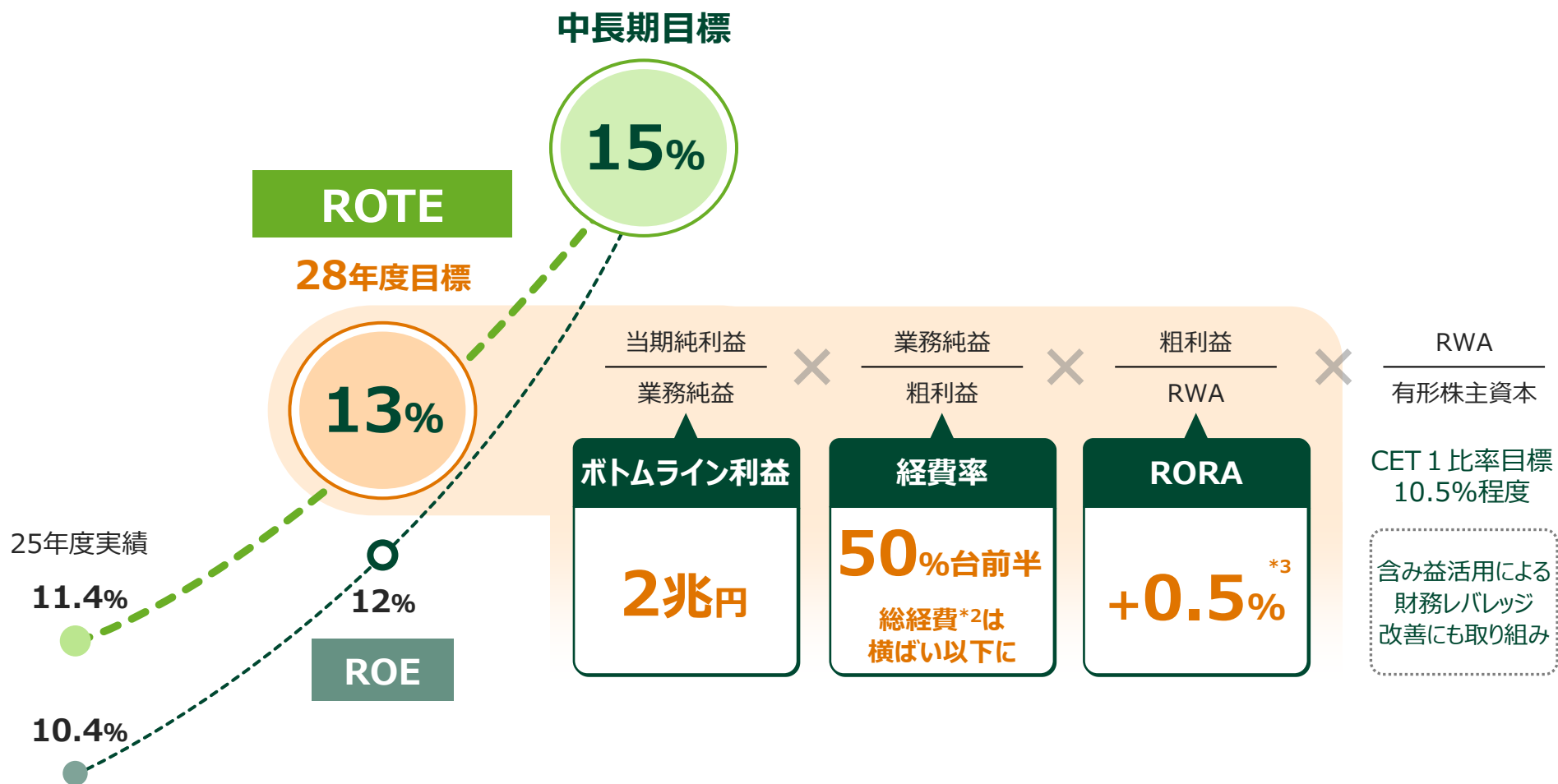
収益性
ターゲット*1



*1 各社が中長期的に目指すROTEまたはROTCE目線
ROTE：分子＝当期純利益＋のれん償却額、分母＝自己資本－無形固定資産

ROTE15%実現に向けた今後3年間の目標*1

ROTE15%達成に向けて、今後3年間のマイルストーンとして、28年度目標を13%に設定
規律ある経費運営とRORA改善にも注力し、ボトムライン利益2兆円を目指す



*1 計画前提：政策金利（日本1.25%、米国3.0%）、1ドル=150円

*2 環境要因、一時的要因、収益連動経費、IT関連経費を除く *3 円金利上昇影響を除く

新中期経営計画で達成したいこと

高みを目指して
大胆な変革に
チャレンジ

I 国内ビジネスでトップ

II 海外ビジネスの構造改革

III テクノロジーを経営の柱に

IV 現場力・戦略遂行力で差別化

V 社会的価値の取組高度化

事業戦略

経営基盤

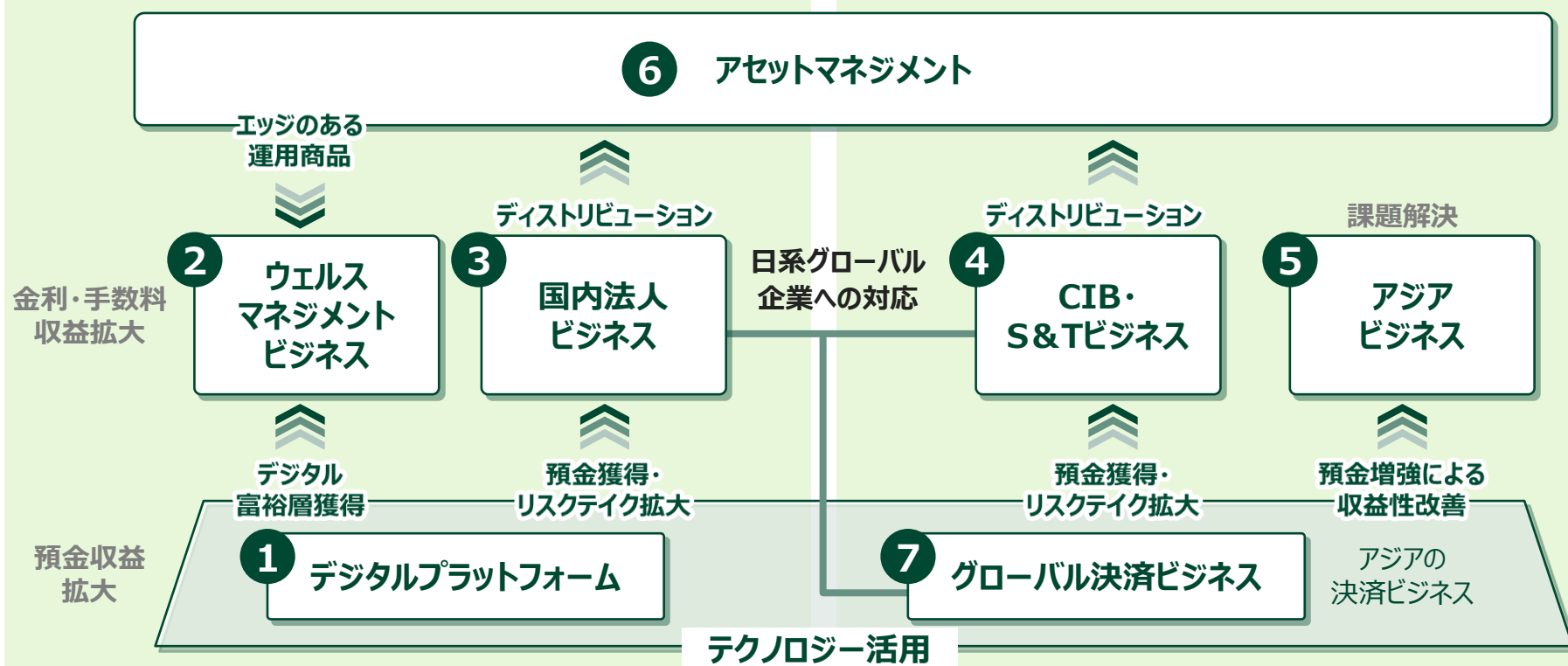
7つの重点戦略領域

目指す事業ポートフォリオの実現に向けて、7つの重点戦略領域を強化

顧客基盤と収益力を強化し、戦略領域間の相乗効果を生み出すことで、ビジネスモデルの進化を図る

I. 国内ビジネスでトップ

II. 海外ビジネスの構造改革



III. テクノロジーを経営の柱に

投資しやすく、持ち続けたいなる銘柄へ

株式分割による投資単位の引下げと「Olive」ユーザーである株主への優待を通じて、SMBCグループの長期的な成長戦略を評価し当社株式を長期保有していただけるような関係を構築

株式分割

個人投資家が投資しやすい環境整備のため、投資単位を引き下げ

分割割合 1 対 2

株主優待

I Vポイントの付与

保有株式数*1	保有期間	付与ポイント
100株～	1年～	5,000pt
1,000株～	5年～	30,000pt

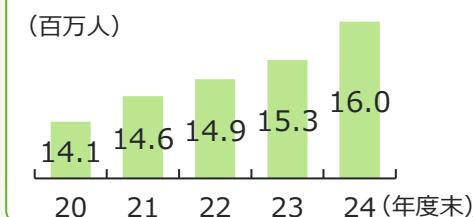
II 定期預金金利上乘せ

円定期預金 3カ月物
+ 年1.0%

III 協賛イベント等ご招待

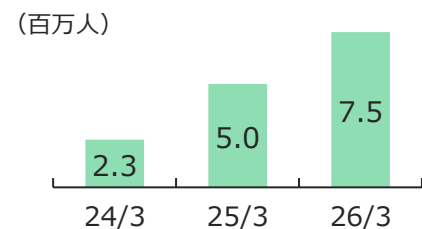
国内の個人投資家

個人株主数推移*2



Oliveユーザー

Oliveアカウント数



増加傾向にある長期保有志向の個人投資家との接点を広げ、顧客基盤も拡充

*1 初回基準日である2026年9月30日時点の株式数、2027年以降は2026年10月1日付で行う上記株式分割を反映

*2 出典：日本証券業協会

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」、ならびに、環境、社会およびガバナンスにかかる当社グループのサステナビリティに関連する活動に関する記述（「サステナビリティに関する記述」）が含まれております。

多くの場合、これらの記述には、当社グループの将来に関する事項を表す「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績や結果を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績や結果は、本資料に含まれるもしくは含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績や結果に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」または「サステナビリティに関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。また、「サステナビリティに関する記述」における、当社グループのサステナビリティに関連する取組については、当社グループのリスク管理およびその他の投融資等の目的を推進しそれらに対応することを目指す、当社グループが独自に決定した方針と方法に基づき行われ、また個々の決定は各法域において適用される法規制に基づき、それに従って行われます。

当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。

為替レート（月末TTM）

	25/3末	26/3末
1ドル	149.53円	159.90円
1ユーロ	162.05円	183.44円

為替レート（期中平均レート）

1ドル	152.57円	151.06円
1ユーロ	163.65円	175.53円

▶ 本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ（持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
SMDAM	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
経費（SMBC）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス